



みんながじまんでる学校を！

大塔っ子

佐世保市立大塔小学校
学校だより 校長 酒井元治

令和5年度 第4号 7月5日発行

「ダンデライオン」のみなさんとコラボ ～赤いくつ～

6月は「いのちを見つめる強調月間」、これはご存知の通り平成16年本市小学校で起きた痛ましい事件から始まりました。そして、子どもたちに関わる全ての人間のそれまでの取組を反省せざるを得ないような10年後の市内高校での凄惨な事件も忘れてはいけません。平成16年からの19年間、本市の学校では子どもたちの命や子どもたちの人間関係づくり、ネットとの関わりにどう向き合えばいいかを考えながらその対応に取り組んできました。

その月間の最後は「6・29 佐世保空襲の日」の平和集会で締めくくります。終戦の年1945年(昭和20年)のこの日の深夜、佐世保は大規模な空襲に見舞われます。全市の約3分の1(当時の本市の面積比)が焼失し、約6万人が被災し、1,242名の尊い命が奪われます。

大塔小学校の平和集会は「なかよし委員会」が担当です。集会では、担当の子どもたちの「はじめの言葉」や私(校長)の話に続き、佐世保空襲を取り上げた絵本「赤いくつ」の読み聞かせが行われました。昨年までは「なかよし委員会」の子どもたちだけで担当していたのですが、今年は本校の読み語りボランティア「ダンデライオン」の皆さんとコラボです。

赤い靴は、佐世保空襲の惨劇を後世に伝えるために作られた絵本です。名切、現在の中央公園辺りに小さな靴屋を構え細々と家業を営んでいるおばあちゃんの話で始まります。この靴屋さんに残された片方だけの赤い靴の持ち主は佐世保空襲で被災し家族を亡くした小さな女の子です。戦時中、贅沢とされていた赤い靴を履くことができる平和な世の中を待っていた女の子。空襲警報のときに持ち出すリュックの中に密かに入れていた赤い靴。そんなささやかな希望を一夜の空襲が粉々に打ち砕きます。そして、大事にしていた赤い靴も空襲で逃げ惑う中、家族が生きていると信じて焼野原を探す中、片方になってしまいます。そんな寂しい片方の赤い靴が伝える悲しい、そしてむごい戦争の話を、「なかよし委員会」の子どもたちと、「ダンデライオン」の皆さんが読みつないでいきます。「ダンデライオン」の皆さんが入ってくださることによって、ぐっと現実味が増し、物語が伝えるものも子どもたちの心の中にずっと入っていくような気がしました。



て、ぐっと現実味が増し、物語が伝えるものも子どもたちの心の中にずっと入っていくような気がしました。

集会が終わってから、ご協力いただいた「ダンデライオン」の皆さんの話を聞くと、「いやあ、いい経験になりました。」「ちょっと長い時間だったけど、子どもたちが真剣に聞いてくれる様子が伝わりました。」「最後の子どもたちの歌声にちょっとうるうとききました。」「というご感想をいただきました。集会を締めくくった全校合唱は竹内まりあさん作詞の「いのちの歌」です。よかったら、「竹内まりあ いのちの歌」で検索し、動画でお子さんたちと口ずさんでみてください。



言葉を考える

～言葉は伝染するもの 言葉は人の性格や考え方を変えてしまう力を持つもの～

表面は「ダンデライオン」の皆さんとのコラボの話でしたが、この「6・29佐世保空襲の日」平和集会で私がした話は言葉に関するものです。

学校は多くの子どもたちがそれぞれの価値観と考え方と表現力を持って集まっている集団です。もちろん、その人間関係の中では、うまくいくこともあればそうでないことも…。そして、子どもたち同士の言い合いやけんかもあります。それはそれとして、意見が合わない他人とどうやって折り合いをつけるかということは、幼少期から体験し学んでいく大切な経験だと思います。

子どもたちには「仲なおりできないけんかはするな。」というのですが、当の本人たちがけんかを始めるときは、仲なおりできるかどうかなんて考えてはいません。時には、「死ね～！」「ころす～！」なんて言葉が飛び交うこともあります。今回はこの言葉に着目して私の話を組み立ててみました。

もちろん、「死ね～！」「ころす～！」と言って、その行為に至る子はいないのですが、その言葉にどんなとげとげしさがあるのか、どんな悪影響を及ぼす力があるのかということです。

まずは、少々手荒いのですが、犯罪被害者遺族の手記の一部を紹介しました。小学生でこのように云わばどぎつい現実を突きつけるのどうかと思ったのですが、人が命を奪われること、そしてその残された家族の悲しみは推し量ることができないものであること感じてもらいたかったのです。活用させていただいた手記は、結婚を目前にした息子さんと、それを楽しみに待っていた旦那様の2人の命を予期せぬ本当に理不尽な事件で奪われた女性のものでした。いかにその悲しみが続くか、そして一つしかない命が奪われた家族の現実とはどんなものかを子どもたちに感じさせたいと思いその一部を引用しました。

そして、言葉は伝染するものであること。例えば、数人で会食をしていたとします。そんな中誰かが「まずい！」という言葉が発してしまうとその言葉に影響され「まあまあ、おいしいけどな。」と思った人でも「まずいのかな。」という気持ちになってしまいます。コメディアーを見ていての「おもしろくない！」だってそうです。言葉は他人の感情に伝染していきます。「死ね～！」や「ころす～！」が伝染していったらどうなるか…？

また、言葉には人の性格や考え方を変えてしまう力があります。「死ね～！」「ころす～！」という言葉を出しながらけんかをしている子どもたちは、頭の中で「いつも優しい〇〇君が今日はどうしたんだろう？」なんて思わないはず。これらの言葉の脳裏で浮かんでくる言葉は「こいつ、いなくなればいいのに。」とか、「懲らしめてやる。」とか「ぶっ倒れろ！」とか、より荒々しい言葉でしょう。私たちは多くのことを考えるとき言葉を介して考えることが多いでしょう。日頃から「死ね～！」や「ころす～！」などの言葉を普通に使っていると頭の中はその荒々しさで満たされてしまい性格や行動を変えてしまうという話です。

そして、その最たるものが戦争ということで6・29佐世保空襲の日平和集会へ繋がりました。これもやや荒々しい繋げ方なのですが、子どもたちに言葉の力について考えてもらいたい、平和とはそんな小さな取り組みからであることを知ってもらいたいとの思いからです。

7月行事予定

日	曜	行事等	日	曜	行事等
3	月	縦割活動（全；縦割り班での遊びです）	17	月	☺海の日
4	火	音楽朝会	18	火	個人面談（～26日）
5	水	委員会活動	19	水	クラブ活動
10	月	6校時カット（～20日）	21	金	1学期終業式
			22	土	夏休み（2学期始業式は8/29）

みんながじまんでる学校を

しね～！

ころす！



